

1. 略歴

- 1986年3月 東京大学文学部国史学科卒業
1992年3月 東京大学大学院人文科学研究科国史学専攻博士課程修了
(1995年3月 博士(文学)学位取得)
1992年4月 東京大学社会科学研究所助手
1994年4月 東京大学教養学部助教授
1996年1-10月 ドイツ、ボーフム大学 (Ruhr-Universität Bochum) 客員教授
1996年4月 東京大学大学院総合文化研究科助教授 (大学院重点化による)
1999年10月 東京大学大学院人文社会系研究科助教授
2007年4月 同准教授
2012年8月 同教授
2012年8月-2013年3月 米国、イェール大学 (Yale University) 客員研究員

2. 主な研究活動

a 専門分野

日本近代史

b 研究課題

明治期の機械工業が元来の研究課題。新技術の導入が社会をどのように変えて行くのかという問題関心を中心に、史料に即した明治・大正期の再検討を心がけている。

c 概要と自己評価

講座ものの執筆や共同研究に参加したため、従来より幅広く対象をとらえることができるようになり、産業遺産の研究でも多くの知見を得られたが、手を広げすぎて多忙なため、検討を深め、また体系的に成果を提示することが課題となっている。

d 主要業績

(1) 著書

共著、秋山聰・野崎敏、『人文知2 死者との対話』、東京大学出版会、2014.11

共著、似田貝香門・吉原直樹編、『震災と市民2 支援とケア』、東京大学出版会、2015.8

(2) 解説

鈴木淳、「産業遺産研究の到達点と課題—世界遺産推薦問題で見えて来たもの—」、中部産業遺産研究会創立20周年記念誌編集委員会『中部における産業遺産研究のあゆみ—中部産業遺産研究会創立20周年記念誌』、2014.7

鈴木淳、「開港の綿業への影響について」『歴史と地理』682号日本史の研究248号、2015.3

鈴木淳、「富岡製糸場と近代経済をめぐる教科書叙述」群馬県高等学校教育研究会歴史部会『歴史部会紀要』44号、2015.3

(3) 研究報告書

鈴木淳、旧東京陸軍第二造兵廠内火薬研究所等近代化遺産調査団、「旧東京陸軍第二造兵廠火薬研究所等近代化遺産調査報告書」、71-74、179-186頁、2016.3

3. 主な社会活動

(1) 他機関での講義等

「明治の工業都市東京における隅田川」、たばこと塩の博物館展示関連講演会、2016.1.13

「日本の近代化と川口鑄物産業」、川口市文化財調査報告会、2016.3

(2) 学会

国内、政治経済学・経済史学会、編集委員

国内、日本産業技術史学会、理事

国内、日本歴史学会、評議員

(3) 行政

文化庁、文化審議会文化財分科会第三専門調査会専門委員、世界文化遺産特別委員会委員

群馬県、群馬県世界遺産専門委員会委員
群馬県富岡市、富岡製糸場保存修理委員会委員
埼玉県川口市、川口市文化財保護審議会委員